

トヨタ自動車北海道株式会社

Box連携で電子帳簿保存の効率化と検索性の向上を実現！ RPAツールの置き換えやクラウド連携など利用範囲拡大に向け内製体制を強化

トヨタ自動車北海道株式会社は、北海道で唯一のトヨタ自動車のものづくり拠点として、オートマチックトランスミッションやCVT、ハイブリッドトランスアクスルなどの駆動ユニットを国内外の車両工場へと供給し、低燃費かつ環境にやさしいクルマづくりに貢献している。同社では「電子帳簿保存法（以下、電帳法）」への対応にあたり、システムの整備、運用にかかわるコストや作業負担の大きさが課題に。そこで、以前からファイル共有に利用していたBoxを電子帳簿の保存先として利用。加えて、会計システムから請求書データをBoxに自動で集約・格納する仕組みを「ASTERIA Warp Core」で構築し、電帳法への対応を低コストかつスピーディーに実現した。さらに、ExcelやAccessを利用したさまざまな業務領域での属人化や、ファイルの肥大化による作業負担の増大に対しても、ASTERIA Warp Coreを介したシステム連携の適用を順次進めることによって解消を目指す一方、異常動作が頻発するなど安定性を欠いているRPAによる業務の安定化にもASTERIA Warp Coreを役立てていく。

導入背景

- 電帳法への対応にあたり、グループで共通の専用サービスの利用を検討していたが、コスト面などを考慮し、Boxを電子帳簿の保存先として活用することに決定
- 業務にかかわるExcelやAccessについて、運用の属人化・ファイルの肥大化・排他制御に伴う使い勝手の低下が課題
- 単純なデータの入力・加工・変換をRPAで行っているが、画面の変更などにより、ロボットの停止や異常動作などの障害が頻発

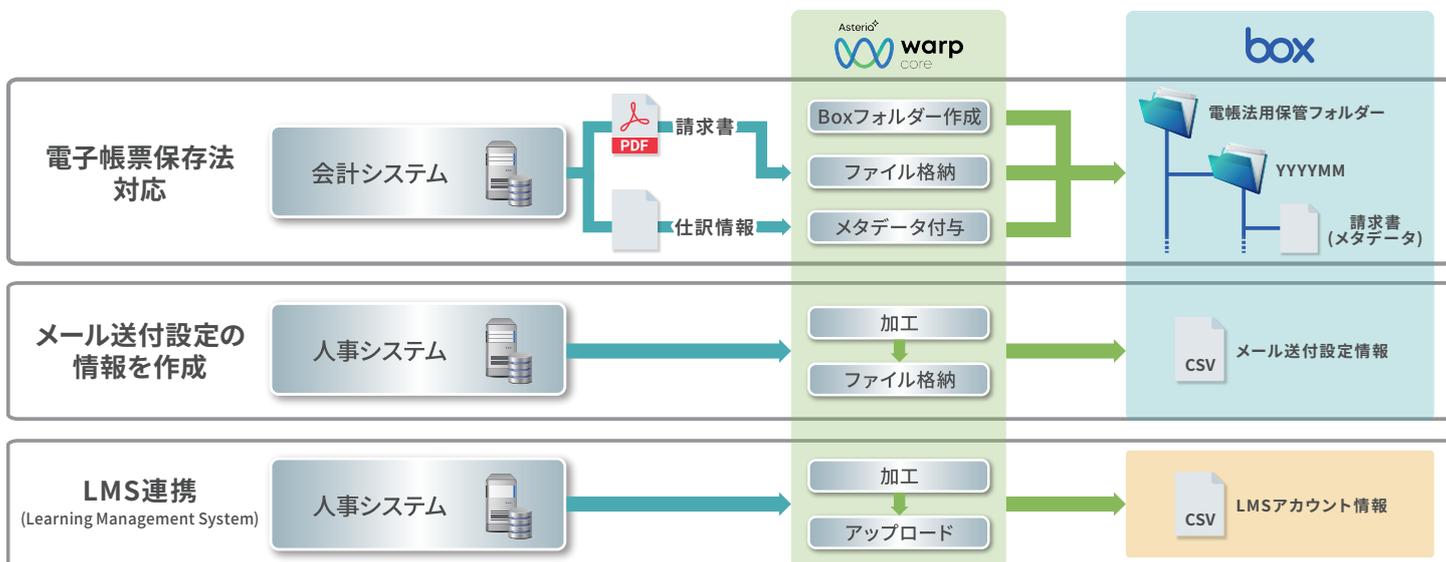
選定ポイント

- Box社から、電帳法対応の連携実績が豊富な製品として推奨。Boxとの連携が容易かつ機能豊富なアダプターを高く評価
- Excelや各種データベースをつなぐ仕組みを、グラフィカルな画面と豊富に用意されたアダプターを使って柔軟に開発可能
- さまざまなシステムやサービスとの接続が容易で、今後のデータ連携ニーズにも迅速に対応可能
- RPAで行っている業務自動化の代替が可能

効果

- Boxに月単位でフォルダーを自動作成し、メタ情報を付与した請求書を格納する処理を実装。短期間かつ低コストで電帳法への対応を実現
- RPAで行っている入力作業をASTERIA Warp Coreで自動化し、パフォーマンスが安定
- 随時発生するデータ連携のニーズに対して、スピーディーに連携処理を内製できる体制を整備

システム概要



ユーザーのひと言



電帳法対応を契機にASTERIA Warp Coreを導入したことにより、プログラミングの知識を持たない人員を含めた開発体制の構築ができると期待しています。現在、開発者の増員を目指す一方、各部署に声をかけ、ASTERIA Warp Coreの活用でどんなことが実現できるのかを説明し、各現場の抱えている課題をヒアリングしています。そこで集まった案件を精査し、ASTERIA Warp Coreを適用して、順次、課題解消のための開発を進めていきたいと考えています。

トヨタ自動車北海道株式会社 ご担当者様

User Profile



所在地：北海道苫小牧市字勇払145-1
 会社概要：オートマチックトランスミッションやCVTなど駆動ユニットを国内外の車両工場に供給し、トヨタ自動車のクルマづくりに貢献している。
 業種：製造業
 URL：https://www.tmh.co.jp/